

第2学年 国語科学習指導案

第2学年1組 32名
授業者

第2学年2組 33名
授業者

2学年分科会がめざす児童像

伝えたいことを明確にしながら、自分の思いや考えを伝えることができる児童

1 単元名 この人を しょうかいします

2 単元の目標

(1) 「知識及び技能」に関する目標

事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。

(2) 「思考力・判断力・表現力等」に関する目標

- ・「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。
- ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。

(3) 「学びに向かう力、人間性等」に関する目標

- ・言葉がもつよさを感じることができるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝えようとする態度を養う。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。・・・(2)ア	① 「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。・・・B(1)イ ② 「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表	① 進んで内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫し、これまでに学習したことを振り返って学習の見通しをもって、粘り強く簡単な構成を考えて、身の回りにいる人を友達や先生に

	し方を工夫している。…B(1)ウ ③「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。…B(1)オ	紹介する文章を書こうとしている。
--	---	------------------

4 単元について

この単元における重要指導項目は、「B書くこと」(1)イ「自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること」である。これまでに児童は、「家でしていることを友達に伝える」活動や「遊び方を説明する」活動のために、「はじめ」「中」「終わり」の構成を考えて文章を書く学習を行っている。その際に、一人一台端末を効果的に活用し、書く内容を簡単に思い出させたり、書き直しを簡単に行わせたりするための工夫をした。また、ムーブノートで、児童の考えや情報を共有する活動を行った。

本単元では、身の回りの人のことを紹介する文章を書いて、先生や友達に紹介し合う活動を設定した。この時期の児童は、自分が日常生活の中で経験したことや知っていることなどを、身近な人に紹介し、知ってほしいという意欲をもっている。

そこで、児童には書く意欲をもたせるために次の点に留意した。

- ・目的をはっきりさせて学習に入る。
- ・生活科の町探検で出会った人たちや、日頃からお世話になっている地域の方を想起させる。
- ・その方たちにお礼の手紙とともに書き上げた紹介文を渡す。

以上のような活動により、書く前にはまず、紹介したいと思う事柄をなるべく多く集めようとする意欲をもたせたい。さらに、紹介したい人の写真を撮るなど、視覚情報を多く集めることにより、カードに何を書いていいかわからない児童に具体的なイメージをもたせることができ、また指導者も写真を見ながら助言しやすくなると考える。

オクリンクを活用することで、書く事柄の順番を考えて内容のまとまりごとにカードを並びかえたり、不足する情報も書き足したりすることが容易である。また、カードを作成する途中段階でも互いのよさや感想を交流することができ、多様な表現のよさに気付いたり、自分の表現に生かしたりするといった深い学びができると考える。

最終的にここでは、書く事柄を内容のまとまりごとに整理して、簡単な構成を考えて書く力を身に付けさせたい。また、伝えたいことが明確になるように文章を記述する力と、書いた文章を読み合っ自分や友達の文章の内容や表現の良いところを見付ける力も身に付けさせたい。

本単元の学習は、2年2月の「あなのやくわり」で身の回りの穴について考えたことを文章にまとめる際などに活用することができる。前後の単元とのつながりを踏まえて、学習に取り組ませたい。

5 児童の実態

本学級の児童は、文章を書くことに対して苦手意識をもつ児童が多い。作文の学習では、「何を書けばいいかわからない」や、「何も思いつかない」などの困り感をもつ児童が多く出てくると予想される。しかし、日常の学習の中で Chromebook を使った授業だと、意欲的に取り組む児童が多いと感じている。

Chromebook を活用すると多くの意見を出出できることから、児童は多様な考えをもっていることが分かる。そのため Chromebook を活用して、出した考えを文章にまとめる活動を行い、文章の構成を学ばせていくことを計画している。

児童は4月に国語の学習において、友達に伝えたい出来事を思い出し、メモに書き出す活動を行っている。6月には「家でしていることを友達に伝える」活動を行い、自分が手伝いをしている様子をビデオで撮影し、その様子を見ながらメモを書く活動を行った。そのメモについても、加除修正がしやすいように、Jam board の付箋機能を利用した。児童は、Jam board でメモを書く際、スムーズに書くことができ、すぐに加除修正ができる利点も感じながら活動していた。しかし、Jam board では横書きしかできないという欠点があることや、他の児童のページを誤って消してしまうなどのトラブルがあった。

Google フォームで「文を書く前に、写真や動画に撮っておいて、見ながら書く方が文章を書きやすくなるか」というアンケートを取った結果、「わりとそう」「とてもそう」と答えた児童が半数以上いた。また、理由の記述覧には「写真や動画があると思い出しやすいから」「実物を見て書くと分かりやすいから」等の回答があったため、今回の授業でも画像を見ながら文章を書く活動を入れることとした。

前回の反省を踏まえ、今回はオクリンクを使用し、縦書きで書き込めるように改良し、個人のページのみを編集する作業をさせる。また、写真からメモに移動する際に混乱が生じないように、同じオクリンク内のページで切り替えられるように工夫する。書くのが苦手な児童にとっても、活動ごとに友達の進捗状況を提出ボックスで確認できるので、それも支援になると考える。また、簡単に書き出した言葉を取捨選択したり、簡単に書き直したり、並び替えたりできるため、文章を書くことへの困り感を減らし、楽しみながら文章を書くことができるのではないかと考える。そして、「何を書けばいいか分からない」児童に対しては、友達との意見交換をオクリンクで行うなど楽しい活動を通して、アイデアを膨らませ、自分の考えを書くことができるようにさせていきたい。

6 子どもの思いや考えをつなげる ICT活用の意図

<ICT活用によって、ねらう効果>

【画像資料】

- ・「紹介する人」の写真撮ることで、書くために必要な事柄を集めやすくする。

【オクリンク】

- ・作文を構成する際のメモとして使用する。また、写真もオクリンク上に貼り付けて、ページをめくる感覚で写真とメモとを交互に見ることができる。
- ・作文と同じように、縦書きで書くことができるため、実際に書く時と同じように書くことができる。
- ・メモの並び替えや修正、取捨選択をする活動に効果的である。集めた事柄を友達と共有し、助言をしながら活動でも、画面を見せ合いながら行い、自分のメモを書き改めたり書き足したりして、整理できるようにしていく。「何を書いたらいいか分からない」児童は、友達の画面を参考にして自分のメモに書き込むことができる。

7 単元の指導と評価の計画（全8時間）

次	時	○主な学習活動	◇指導上の留意点 ◆評価 □情報モラルに関する指導 ■ICT活用
第一次	1	○自分の身の回りにいる紹介したいような人がいるかを思い出す。 ○単元の流れをつかむ。	◇身の回りの人だけではなく、生活科の町探検でお世話になった人なども想起させる。 ◆友達に紹介したい人を進んで思い出している。【態】（ノート）
	2	○紹介したい人を決める。 ○紹介したい人のことを詳しく思い出す。	◇紹介したい人について、できるだけ多くのことを思い出させ、紹介したい出来事を決める。 ◆紹介したい人のことを進んで思い出し、内容を書いている。【知①】（ノート） □紹介したい人の写真を撮る際には、個人が特定されるような取り方をしないようにする。
第二次	3 （本時）	○紹介したい出来事についての写真を見ながら、具体的にオクリンクのカードに書き出す。 ○紹介をするのに、特に必要なことを選ぶ。 ○書いたカードを友達と見せ合う。	◇紹介する文章に不必要な内容は省く。 □読んだ相手が嫌な気持ちになる言葉は書かない。 ■内容を思い出して必要な事柄を集めて、具体的な内容をカードに書いている。 ◆自分の思いや考えが明確になるように事柄を思い出して書き出している。【思①】（オクリンク）
	4	○書いたカードを並び替え、文章の組み立てを考える。	◇「はじめ・中・おわり」の順序を理解させる。 ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。 ◆事柄の順序に沿って簡単な構成を考えて書いている。【知①、思①】（オクリンク）
	5	○身近な人を紹介する文章を書く。	◇「はじめ・中・おわり」の順序で書かせる。 ◆語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。【思②】（作文用紙）
	6	○書いた文章を友達と読み合う。 ○友達と助言し合う。	■文章を写真に撮ってオクリンクで提出させ、お互いに助言をカードで送らせる。 ◆文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現を見直している。【思③】（発言）
	7	○友達からの助言を基に文章を書き直す。	◇より分かりやすい文章を書かせる。 ◆これまでの学習を生かし、進んで簡単な構成を考えて、身の回りにいる人を友達や先生に紹介する文章を書くようとしている。【態】（作文用紙）
第三次	8	○紹介する文章を読んで発表する。 ○友達の文章のよいところを伝え合う。	◇友達の文章でよいところをオクリンクのカードで伝えさせる。 ◆文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけている。【思③】（発言）

8 本時（3／10時）

(1) ねらい

友達に紹介する人を決めて、紹介したいことを思い出して書く。

(2) 展開

	○具体的な学習活動 ・予想される児童の反応	◇指導上の留意点 ◆評価 □情報モラルに関する指導 ■ I C T活用
課題把握	○本時のめあてと学習の流れを確認する。 ○課題となる部分を音読する。	◇教科書のメモの言葉に着目させる。
	めあて しょうかいしたいことをメモして、伝え合おう。	
展開	○紹介したい人の写真を見ながらオクリンクのカードに書くことを考える。(全体) ・りょう理がとくい。 ・毎日りょう理をする。 ・おかしも作る。 ・食べたいものがあるといつも作ってくれる。 ○紹介したい出来事についての写真を見ながら、具体的にオクリンクのカードに書き出す。 ○たくさん書いた中から、特に必要なカードを5枚選ぶ。 ○隣の友達と書いたカードを見合う。 ・わたしは、○○についてしょうかいします。わかりましたか。 ・よくわかりました。 ・ここはどういういみですか。こうした方がいいね。	◇児童の意見を取り入れながら、手本となるカードを教師が示して書いていく。 ◇なるべく短い文を考えさせる。 ◇カードの作成が早く終わった児童には、読みやすい順に並び替えをさせる。 ◆自分の思いや考えが明確になるように事柄を思い出して書き出している。【思①】(オクリンク) ■必要な事柄を思い出してカードに書いている。(オクリンク) ◇提出ボックスから友達のページを開かせる。 ◇話し方を指示し、良いところを認め合うように促す。 ◇疑問点があれば、質問させる。 ◇伝わらなかった内容については、順序を考えさせることや、新たに言葉を考えてメモを再度作成させる。
振り返り	○本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。 ・順番に並び替えることができた。 ・細かく思い出して、書き出すことができた。	◇次回は、本時で作ったカードを接続語で繋げて文章にしていくことを伝え、学習への意欲をもたせる。

<本時の観察の視点>

- ・写真を見ながらメモを取る方法は、具体的な内容を思い出して書き出す活動に有効であったか。
- ・メモをオクリンクで書き出す方法は、簡単に文章を構成する際に有効であったか。